領土・主権展示館の新たな展開

内閣官房領土·主権対策企画調整室

令和7年6月

領土·主権展示館

- 2012年に日本の領土・主権をめぐる情勢が厳しさを増したことを受けて、日本の領土・主権に関する国内外への発信を強化すべく、領土問題担当大臣とそれを支える領土・主権対策企画調整室が設置される。
- その後、日本の<u>領土・主権(特に北方領土・竹島・尖閣諸島)に関する事実や日本の立場に関する正確な理解を国内外に</u> <u>浸透</u>させていくための発信拠点として、2018年1月に領土・主権展示館が開館。 2020年に虎ノ門ダイビルイーストに拡張移転。
- 展示館は、北方領土・竹島・尖閣諸島をめぐる歴史的経緯を客観的に淡々と示すという観点から歴史史料とパネル解説を中心に展示。来館者(年間約1万人)からは好評であったものの、ますます厳しさを増す国際情勢を踏まえ、若年層(児童生徒を含む)や関心が必ずしも高くない層への発信の強化が必要と考えている。
- 〇 展示館の機能強化のため、令和6年秋から展示館のリニューアル工事のため一時閉館し、同じビル内に臨時展示館を開館。<u>令和7年4月にリニューアル・オープン</u>。また、<u>本夏~秋頃にかけて、講義・ワークショップ・昼食スペースにも活用活</u>用可能な拡張部分をオープン予定。

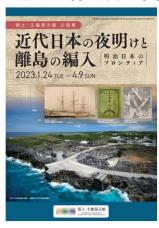
「読む」展示から「体感する」展示へ。 |

➡ 修学旅行や課外授業で活用を!!

リニューアル前の領土・主権展示館 (入口からの様子)



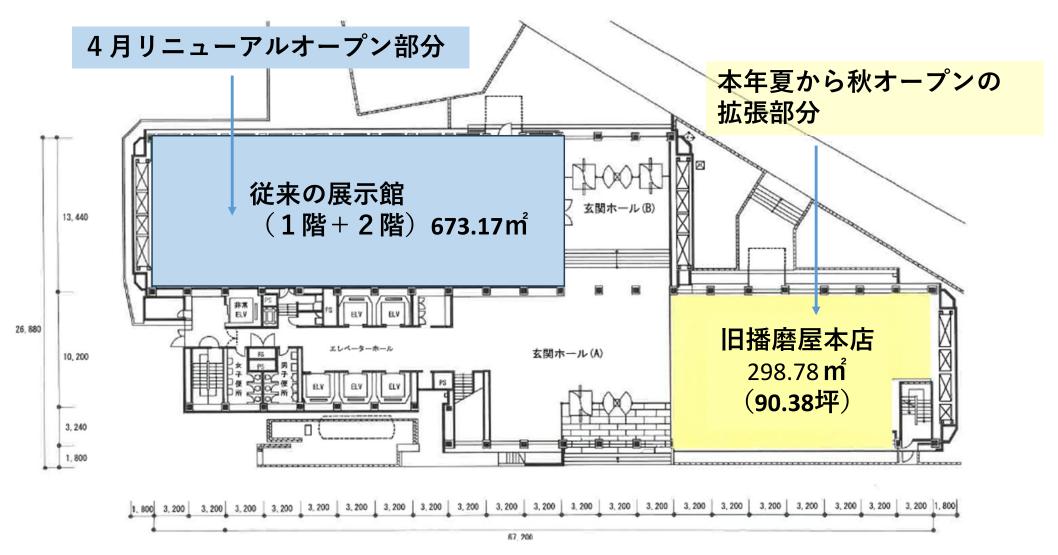
過去の特別展の事例



展示館の位置・周辺マップ



ダイビルイースト1階図面

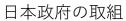


リニューアル後の展示館イメージ図(4月オープン)

子ども向けコーナー ハンズ・オン・アースなど



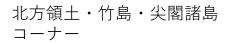






オープニング動画







本夏から秋頃にオープンする拡張部分イメージ図

- 〇 日本の国土や自然、歴史の文脈の中で北方領土・竹島・尖閣諸島を位置づけることができるようにするため、3面スクリーンシアターや日本地図(伊能図、赤水図、明治期の地図などの古い日本地図を含む)などの教材を活用する。
- 先生方の多様なニーズに応じることができるよう、展示物の大部分を可動式とすることで、レクチャー方式(講義)やワークショップ方式(児童生徒同士の交流・対話、体験学習)、ライブラリー方式(児童生徒自らの自習、気づき)など柔軟に展開。
- 拡張部分では、学校団体が昼食をとることを可能とする予定。

展開の一例(レクチャー方式)

3面スクリーンシアター

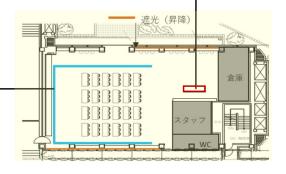




3画スクリーン非連動映像例

<u>デジタル日本地図コーナー</u>





現代の日本地図に加え、

- 歴史的に重要な大型地図(伊能図、赤水図、明治期の官制地図など)をデジタルで入れ替え可能な 形で表示。
- 3面スクリーンシアターでもほかの地図を投影し、 対比しながら見ることもできる。
- 同地図を日本の国土や領土の歴史について考える ワークショップなどでも活用可能。









文字を書いたり線を引 たりできる。

参考:領土·主権展示館

- 北方領土問題、竹島問題及び尖閣諸島をめぐる情勢について、我が国の立場に関する正確な理解が広く国民に浸透するよう、政府全体で内外発信を一層強化するため、平成30年1月25日に日比谷公園の市政会館地下1階に開館。
 令和2年1月に虎の門三井ビルディング(現・虎ノ門ダイビルイースト)に拡張移転。
- ・ 令和6年秋から展示館のリニューアル工事のため一時閉館し、同じビル内に臨時展示館を開館。 <u>令和7年4月にリニューアルオープン。また、本夏~秋頃にかけて、講義・ワークショップ・昼食スペースにも活用可能な拡</u> 張部分をオープン予定。

施設のご案内

領土・主権展示館は、国(内閣官房 領土・主権対策企画調整室)が運営しており、北方領土・竹島・尖閣諸島の島々について、歴史を振り返りながら、日本が領有する根拠、他国・地域の主張や行動、それに対する日本の対応や考え方を説明しています。

▶ 住所: 東京都千代田区霞が関3-8-1(外堀通り沿い)

▶ 開館日: 土·日·祝も開館(月曜日休館)

▶ 開館時間: 10時~18時

▶ 料金: 無料

▶ 最寄り駅: 東京メトロ 銀座線「虎ノ門駅 13番出口より徒歩1分

東京メトロ 日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」A2出口より徒歩5分

東京メトロ 丸ノ内線・日比谷線・千代田線「霞ケ関駅」A13出口より徒歩5分

